



## Newsletter No. 19

# 歴史都市を守る 「文化遺産防災学」推進拠点

立命館大学 グローバル COE プログラム

### 目 次

- 文化を育むための災害対策  
ーグローバル COE プログラムからの提言ー ..... 1
- グローバル COE プログラムの終了にあたって ..... 2
- G-COE 最終報告会の開催報告 ..... 3
- 文化遺産防災ハンドブックの発行 ..... 3
- 「第 7 回歴史都市防災シンポジウム」の開催と講演原稿募集 ..... 4
- 歴史都市防災研究センター企画展示のご案内 ..... 4

2013年 2 月号

## 文化を育むための災害対策 — GCOE 文化遺産防災学拠点からのメッセージ —

文化遺産を守るための文化遺産保全については、これまでさまざまな提言がなされてきた。しかし、自然災害対策を対象としたものは少なく、具体的な実施も一部の地域に限られている。そういった状況の中でこれまで少数ながら実施されてきた防災対策は、文化を絶やさないための工夫が凝らされており、先進的な事例として参考にするべきことは多い。しかしながら、本グローバル COE「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」の活動を通じて得られた種々の知見によれば、さらに進んだ災害対策を実施すべきだと考える。文化遺産や歴史都市を対象としたこれからの災害対策に求められるものは、これからの文化を育む災害対策である。

過去から受け継がれてきた文化遺産を後世に伝えることは文化を守ることにそのものであり、われわれの世代でその文化を絶やしてはならない。そのために、文化遺産や歴史都市を自然災害から防御する措置を行うのは現代人にとって当然の責務である。しかし、自然災害を対象とする場合、完全に損傷を防御することは不可能であり、損傷をなるべく減らす減災の考えに基づく必要がある。一方、文化遺産は唯一の価値を持ち、代替のできないものであり、一部でも損壊すれば文化的価値を損ないかねない。この場合には、文化遺産の防災という考え方を取らざるを得ない。その文化遺産の本質を見極め、守るべきものをしっかりと守る知識と技術が必要となる。

さらに、新たに文化を創成し、それを後世に伝える努力を忘れてはならない。自然災害への備えを忘れることのできない日本において、文化遺産や歴史都市に防災・減災対策を施し、新たな文化を育んでいくことが必要だと考える。文化遺産を災害から守るという受け身の対策だけではなく、文化を育てていくための防災という能動的な意味合いを見いだすことこそ肝要である。東日本大震災で被害を受けた地域の復興にあたって、各時代の文化の継承を抜きにしては考えられない。これまで受け継いできた文化遺産を後世に伝えるのみならず、有効な防災対策を施して新しい文化を育んでいくことこそが、人びとの豊かな生活を保障することに繋がるのである。

そのためには、文化遺産の脆弱性を正しく評価し、その歴史的な意義を把握し、確固たる科学技術に裏付けられた防災計画をたてて実行していく一連の流れが必要である。個々の内容についてはそれぞれの専門家が存在しているが、全体を統合する人材の早急な育成が望まれる。

2013年 2月

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点

## グローバル COE プログラムの終了にあたって

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点  
拠点リーダー 大窪健之

この度、立命館大学グローバル COE プログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」が、グローバル COE 拠点としての活動を完了する運びとなりました。

本拠点は、21世紀 COE プログラムとして世界に先駆けて実施してきた、歴史都市を自然災害から防御する基礎的な学理構築を、この5年間でさらに拡充し、実社会へ応用・実践することを目指して活動を続けてまいりました。また、多様な地域特性の下で存在する文化遺産を災害から守る普遍的な「文化遺産防災学」の確立を目指し、同時に国の内外を対象とする教育プログラムに展開することで、世界に向けてその成果を発信し、学問分野の礎を世界的規模で築くことを目的としてまいりました。このため、従来の災害科学や防災工学の枠組みを超え、文化遺産防災に関する問題提起や、実践にかかわる人文社会科学的見地をも含めた文理融合型の取り組みが特徴となっております。

私たち人間は、永い歴史の中で文化を醸成し、その結晶としての文化遺産や歴史都市を育んでまいりました。しかし文化遺産の多くは歴史上、地震、火災、洪水、あるいは戦火等によって失われており、現存するものはほんの一握りにすぎません。災害をこえて先人から受け継いだ貴重な文化遺産とこれを取り巻く歴史都市とを、一体として後世に引き継ぐことは、歴史ある地域とこれを支える人命とを同時に災害から守ることに繋がります。私たちが目指すものは、この意味において、防災・減災という考え方を組み込んだ、新しい文化そのものを追求することにあると考えています。

立命館大学では、引き続き歴史都市と文化遺産の防災に取り組んでまいります。「文化遺産防災学」の発展、文化的価値を継承する実践的な防災技術の獲得、即戦力となる実務家と研究発展を担う若手研究者の輩出を通して、当該分野の世界の中心拠点として、社会貢献へ向けた機能を発揮できる教育研究環境を確立していく所存です。今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

## G-COE 最終報告会の開催報告

2012年12月8日(土)、びわこ・くさつキャンパスのプリズムホールにて、グローバルCOEプログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」最終報告会「文化遺産を災害から守り継承していくために」を開催しました。外部評価委員の出席のもと、5年間の活動紹介と教育研究成果について報告を行いました。活動の総集編としてまとめた「文化遺産防災ハンドブック」についても紹介しました。

### ●プログラム●

#### 【開会の辞】

川口清史(立命館大学総長)

#### 【基調講演】

文化財の継承保存と防災

～京都御所と冷泉家住宅・典籍をめぐって～

冷泉為人(財)冷泉家時雨亭文庫理事長・立命館大学特別招聘教授

#### 【G-COE文化遺産防災学推進拠点の趣旨】

大窪健之(立命館大学教授)

#### 【拠点研究活動成果】

1) 京都の歴史災害と文化財

山崎正史(理工学部教授)

吉越昭久(文学部教授)

土岐憲三(歴史都市防災研究センター教授)

2) 文化遺産を核とした周辺地域の防災環境整備

深川良一(理工学部教授)

小川圭一(理工学部准教授)

3) 文化遺産防災のハンドブック

大窪健之(理工学部教授)

#### 【国際貢献・教育活動成果】

1) 国際プロジェクトの活動

・共同研究報告

谷口仁士(歴史都市防災研究センター教授)

・ユネスコ・チェア国際研修

板谷直子(歴史都市防災研究センター准教授)

2) 教育等の活動成果について

伊津野和行(理工学部教授)

#### 【外部評価委員会からのコメント】

中川武(早稲田大学教授)

#### 【閉会の挨拶】

土岐憲三(立命館大学歴史都市防災研究センターセンター長)

## 文化遺産防災ハンドブックの発行

グローバルCOEプログラムの終了にあたり、本研究拠点の活動成果の一つとして「文化遺産防災ハンドブック」を発行することとなりました。

文化遺産とそれを取り巻く歴史都市の防災という分野は新しいため、対策のマニュアルがまだ整備されていない都市がほとんどです。そこで本ハンドブックでは、文化遺産をさまざまな災害から防御するための対策案について説明し、各都市における文化遺産災害対策マニュアル作成の参考に資することを目的としています。また、現場の事業担当者等が活用できる具体的なガイドラインや、さまざまな状況下の文化遺産と歴史都市に対して最適な災害対策を導くツールボックスとしても利用できます。事業担当者のみならず、これから文化遺産防災について学ぶ学生や、この分野に興味を持った一般の人々にも、参考書的な使い方ができるでしょう。

本ハンドブックは、「何を」「何から」「どうやって」守るのかという手順の説明と、それに付随する検討項目や具体的な手法のリストから構成されています。発行されましたら、立命館大学歴史都市防災センターのホームページでお知らせします。どうぞご期待下さい。

<http://www.rits-dmuch.jp>

### ●ハンドブックの目次●

1. はじめに
2. 何を守るのか?
3. 何から守るのか?
4. どうやって守るのか?
5. 文化遺産の現状把握方法
6. 考慮すべき自然災害の特性
7. 種々の災害対策例
8. 参考資料

## 「第7回歴史都市防災シンポジウム」の開催と講演原稿募集

文化遺産を自然災害から守ることについては、まだまだ早急に解決すべき課題が多いのが現状です。2012年度に終了する立命館大学グローバルCOEプログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」の活動を継承し、歴史都市防災研究センター※の新たな行事として、2013年度もシンポジウムを開催します。下記要項にて査読付き「論文」と査読のない「報告」を募集いたしますので、奮ってご応募ください。

1. 主催 立命館大学 歴史都市防災研究センター ※

2. 日時 2013年7月13日(土) 9:30～18:00(予定)

3. 会場 立命館大学(予定)

4. 参加費・投稿料 無料

5. 募集するテーマ

文化遺産や歴史都市を自然災害から守るための研究や事例に関する新規論文および報告。

6. 投稿要領

ホームページ(<http://www.rits-dmuch.jp>)をご覧ください。1編4～8ページ(ただし、偶数ページ)とし、完全版下原稿をA4判でオフセット印刷します。

7. 投稿締切 2013年5月7日(火)

8. 最終原稿締切 2013年6月14日(金)

修正意見によって適切に修正された完成原稿を、期日までに郵送または送信してください。

9. プログラム・参加申込み

プログラム概要および参加申し込み案内は、ホームページ(<http://www.rits-dmuch.jp>)に掲載する予定です。発表時間は1編あたり10分程度を予定しています。

10. 原稿送付先・問い合わせ先

立命館大学 歴史都市防災研究センター※ シンポジウム係

〒603-8341 京都市北区小松原北町58番地

電話: 075-467-8801 FAX: 075-467-8825 e-mail: [heritage@st.ritsumei.ac.jp](mailto:heritage@st.ritsumei.ac.jp)

## 歴史都市防災研究センター※企画展示のご案内

本センターは、文化財や文化遺産の集合体としての歴史都市を災害から守り継承していくための学理と技術の確立を目的に、災害科学、土木工学、建築学、情報学、人文・社会科学などの分野が融合・連携した教育研究拠点を形成してまいりました。今回は、多くの研究者が総合的な視点から研究してきました「グローバルCOEプログラム」の完結を記念し、以下の企画展示にて成果を展示しております。ここ京都を中心として、国内ばかりでなく海外の文化遺産防災の研究や東日本大震災などの調査研究事例も展示しておりますので、是非ゆっくりご覧いただきたいと存じます。

企画展示: 立命館大学グローバルCOEプログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」成果報告  
～文化遺産を災害から守り継承していくために～

会 期: (2013年1月15日～2月下旬)

※歴史都市防災研究センターは、2013年度より歴史都市防災研究所に変更予定です。

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点  
Newsletter No.19  
(2013年2月号)

発行

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点

びわこ・くさつキャンパス事務局 (本部) :  
立命館大学 防災 SRC 事務室  
〒525-8577  
滋賀県草津市野路東 1-1-1  
TEL: 077-561-5083  
FAX: 077-561-3418  
Email: heritage@st.ritsumeai.ac.jp

衣笠事務局 :  
立命館大学歴史都市防災研究センター  
〒603-8341  
京都市北区小松原北町 58  
TEL: 075-467-8801  
FAX: 075-467-8825  
Email: rekibou@st.ritsumeai.ac.jp

